
編集後記

日本透析医会雑誌第32巻2号をお届けできる運びとなりました。本号は日本透析医会の広報委員会が会誌編集委員会と改名されて最初の号となります。本号の企画は透析医療に関わる広範囲な内容で、是非ご一読頂きたい各分野の最新情報が満載された大変充実した内容となっています。執筆ならびに発刊に御尽力くださった方々に深く御礼申し上げます。

この編集後記を執筆中に、福岡、大分での記録的な大雨洪水のニュースが飛び込んできました。今回の水害は線状降水帯の発生に伴う局地的な集中豪雨が原因とされています。最近このような異常気象による局地的な集中豪雨に伴う水害、土砂災害等が増加しており、各地で繰り返し発生しています。自然災害は仕方がないと諦めず、人類の英知を結集した最新の科学技術の応用による精度の高い気象情報、気象情報から危険を予知する最新技術と情報の周知徹底、被害を未然に防ぐための迅速な対応、早期の確実な避難を促す行政の防災無線、緊急速報メールなど緊急避難情報の充実などが益々重要となっています。また被害を最小限に防ぐためには、日頃からの洪水ハザードマップの公表と周知徹底、災害弱者に対する適切な避難訓練の実施などの危機管理が重要であることは言うまでもありません。日本透析医会では、ご承知のように以前から災害対策に注力し取り組んでおります。まだ詳細な情報は入っていませんが、今回の洪水での透析患者への影響がないことを祈ってやみません。

会誌編集委員 久野 勉